

2020年度事業計画(案)

1. 基本方針

日本包装学会では、2020年度も引き続き「包装学の深化と体系化、社会の要請に応えうる開かれた学会づくり、包装分野を担う次世代人材の育成、国際化の推進」を主な柱に、事業を展開したいと思います。具体的事業としては、会員相互の研究情報の交換・啓発のための研究発表会、シンポジウム、各種研究会等の開催、並びに学会誌「日本包装学会誌」の刊行を行います。また、これらの目標を実現するために、以下の方針を立てます。

「産官学各分野の均衡ある活動促進」

大学等の包装関連研究領域の研究者あるいは学生の学会への関心を高めるとともに、学会の運営においても「学」の立場からの意見をこれまで以上に取り入れることができるように配慮していきたいと思います。また、企業等の研究者に対しては、研究成果を科学としてまとめて発信してもらえよう、「場」の構築について努力を継続します。さらに、最近大きな注目を集めている海洋プラスチックごみ等、包装資材の廃棄に伴う環境負荷についても、学術的観点から、その実態解明、課題抽出、改善策検討などに積極的に取り組みます。

「学生や若手研究者・技術者に魅力ある学会へ」

若手研究者、技術者、学生会員のために、学会発表での各種優遇、表彰を引き続き充実させます。また、「若手の会」を通じた会員相互の交流の促進を図るとともに、若手の学会運営への参画の機会を増やします。

「国際化の推進」

学際化、国際化の推進のために、IPSを国際的な研究・技術交流の場の中核と位置づけ、IPSを活用することで国際交流活動を更に活発化させます。また、日本包装学会誌への、「海外情報」の掲載をタイムリーに行うとともに、海外からの投稿を積極的に呼びかけます。

「With-Coronaにおける学会活動のあり方」

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、日本包装学会においても今年度の年次大会の中止を決定しました。今後、新型コロナウイルスの影響下で、学会活動をどのように変えていくのかしっかりと議論し会員のコンセンサスを得て、活動を進めていく必要があります。

2. 学会の運営計画

2-1. 第29回通常総会

年次大会の中止にともない、メール等による開催を計画する

2-2. 理事会

2020年度は、2回(例年の年次大会時は見送る)の開催とする。

2-3. 会長補佐会議

理事会同様、3回開催の予定とする。ただし、緊急性の高い審議事項のある場合は、メール審議を含めて臨時に開催するものとする。

3. 各委員会の活動計画

3-1. 編集委員会

- ・ 引き続き時機を得た特集を掲載してゆく。
- ・ 女性委員の活躍の場をさらに拡大してゆく。
- ・ 新たに学会誌に、編集委員会独自の特別企画(包装分野の将来展望等)を掲載する。
- ・ 会員にニーズが高く有益な情報を学会誌に紹介してゆく。
- ・ 引き続き論文投稿を促進するとともに、総説を少なくとも年に2回を目標に掲載する。
- ・ 上記に基づく会員増に努める。

3-2. 企画委員会

- ・ シンポジウムの2回以上の開催を予定する。2020年6月頃 第82回:「中止」、2020年11月 第83回:「未定(4~5題)」、2021年2月 第84回:「未定(4~5題)」
- ・ 各シンポジウムの企画および状況に関する確認と委員間の意思統一を図るため、企画委員会の3回以上開催を予定する(第132回~)。2020年10月、12月(+交流会)、および2021年2月(2021年度向け)。その他、必要と認められる場合。
- ・ 企画立案の参考とするため、アンケート調査を1回実施する。

3-3. 研究委員会

(1) バリア材料研究会

第25回バリア材料研究会の開催

(2) 輸送包装研究会

輸送包装ディスカッション2020の開催

(3) 包装とIoT 研究会

包装とIoT 研究会のテーマに沿った勉強会を実施

(4) 若手の会

若手の会メンバー主導で、包装用語集を編纂中。6月末までに粗方の用語収集を完了する。

※本年度は新型コロナウイルスの状況を踏まえた活動とする。

3-4. 大会運営委員会

(1) 第29回年次大会に向けた委員会活動予定

- ・ 臨時委員会 2020年4月24日 メール審議
- ・ 第226回 2020年6月16日 メール審議

以降の日程詳細は未定(2020年9月 中止となる第29回年次大会のまとめを予定)

(2) 第29回年次大会中止について

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、政府からの緊急事態宣言が発出された。宣言の解除は見通せない状況であり、政府、各自治体の指針を遵守することが最善且つ責務であるとの結論に至り、第29回年次大会は中止とする。

年次大会は中止となるが、予稿集は予定通り発行する。参加登録と予稿集掲載をもって、予稿集に記載された内容の範囲で発表が成立したとみなす。

3-5. 広報委員会

(1) インターネット関連

費用削減の観点から本年度は定型のWeb ページ更新作業、メール配信作業に絞って活動することを原則とする。

ただし、各委員会から要望が発生した場合は、予算を別途申請することで柔軟に対応していく。

(2)東京パック対応

2020年東京パックの開催計画に柔軟に対応していく。インターネット関連は、費用削減の観点から本年度は定型の Web ページ更新作業、メール配信作業に絞って活動することを原則とする。ただし、各委員会から要望が発生した場合は、予算を別途申請することで柔軟に対応していく。

3-6. 国際交流委員会

メール審議を主として、以下の活動を実施していく。

- ・ 「海外情報」の学会誌掲載
- ・ 海外の研究者から学会誌への投稿推進
- ・ 日本包装学会30周年にあわせ IPS' 21またはそれに準ずるセミナー等の企画

3-7. 学会賞等選考委員会

年度末までに、学会賞、奨励賞、論文賞、功労賞について、授賞選考を行う。

3-8. 財務委員会

支出削減による収支バランスの健全化を図る。毎月の財務状況確認による健全な財務運営。各委員会活動を支援可能な予算の作成。

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として、効率的な学会運営を進める。学会活性化、財務健全化に向け、会長補佐会議、理事会での討議を進めていく。